

図書紹介.....

◎熱帯林と人々と食糧 ～生命文化のつながりと開発への適用 [HLADIK, C.M., A. HLADIK, O.F. LINARES, H. PAGEZY, A. SEMPLE and M. HADLEY (ed.): Tropical Forests, People and Food : Biocultural Interaction and Applications to Development (Man and Biosphere Series, No. 19). 852 pp., 1993. UNESCO Paris and The Parthenon Publishing Group, 邦価格約 17,500 円]

本書は、1991年9月10～13日にパリのユネスコハウスで行われた国際科学シンポジウムの成果であり、熱帯地域での人間の生物学的適応性や食糧入手戦略に関する知識の再確認を目的としている。

本書は全部で74の論文からなり、7つの部で構成される。第1部は概説、第2部は食糧の利用可能性に関連した熱帯多雨林の進化と歴史、第3部は食糧生産と野生・半栽培種の栄養的価値、第4部は食糧消費とエネルギー支出の適用性、第5部は環境の種類に関連した食糧入手戦略、第6部は食糧選択に関する文化的要因、第7部は食糧と熱帯林の将来：管理の方針、について述べられている。

進化の過程と森林資源の人間による利用の歴史との生命文化的関係を考えることにより、何故ある種は生産的でしかも食べることができ、何故ある種は食べられないのかが明らかにされる。また、極端に複雑な熱帯林生態系の持つ進化の力と、先史以来の人間の歴史は、今日の戦略の多様性を理解する鍵であり、このことは将来の生命環境を改善するために、我々が経済的・生態的な変化を予想し対処していく上で大いに役に立つと指摘する。

もし人間が湿潤熱帯において森林や生物的多様性を破壊せずに高い人口密度を保とうと思えば、速やかに先人達から効果的に環境を手懐ける方法を学ばねばならないだろう。何故なら森林資源の管理は環境を飼い慣らすことと同じだからである。今日熱帯雨林の生態系を形成し、人類に食糧を供給する植物や動物の種は、その進化的関係が重要な役割を果たしてきた長い過程の結果なのである。

第58論文の著者は「我々は熱帯雨林を食いつぶしてしまうのか、それともそこから得たものを食べていくのか。人間に大きな損害を与えて熱帯雨林を消滅させるよりも、地域住民や人間全体の利益の為に守っていく道を探らなければならないのではなからうか。」と問う。我々が常に自分たちの森林を大切に扱う必要があることを思い起こさせるものとして、本書はとても重要なものだと思われる。

(バンバン ヘロ サハルジョ)